

---

# 仮面ライダー000/オーズ Ankh Re:birth story

SOS

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダーOOO/オーズ Ankh Re:birth  
story

### 【Nコード】

N5034Z

### 【作者名】

SOS

### 【あらすじ】

これはMOVIE大戦MEGAMAXとは違うアーク復活の物語

## 第1話 旅と出会いと黒いコア（前書き）

この時点では作者はMEGAMAX未視聴です  
更新頻度は低いですがよろしく願います

## 第1話 旅と出会いと黒いコア

「お前を選んだのは俺にとって得だった。間違いなくな。」

そう言うとき赤い腕は飛んでいこうとする

「おい、どこ行くんだよ!？」

そう言いながら俺はそいつの腕をつかもうとするが届かない

「お前がつかむ腕は、もう俺じゃないってことだ。」

俺がもう一度つかもうとするが、腕は消え手に割れたメダルを代わりにつかみそいつの名前を呼んだ。

「アंक…」

戦いから四ヶ月後…

映司はある国での旅の途中、木陰で休んでいた。

「ここも前よりは平和になったなあ…。」

映司はそう言うとき一枚の写真を取り出した

そこには映司とたくさんの子供達が遊んでいる姿があった。

だがこの子供達はほとんどが紛争により死んでしまった。映司はしばらく写真を見てその時の事を思い出していた。

「よしそろそろ行くか」

そう言っていると写真をしまいながら歩き始めた。

2時間程歩くと砂漠の遠くに町が見え始めた。

「もうすぐ着くな。今日はあそこで一晩すごそう。」

そう言った途端、近くでなにかが爆発する音がした。

「何だ!?!」

そう言いながら音のした方向を見ると、バズーカを背負った亀のような怪人2体と一人の17歳ほどの青年の姿があった。

「チツ面倒だ! 一気に片付けるか!」

青年はズボンのポケットから黒地に青い線が入った四角いものを取り出し腰につける。それは映司にとって見慣れていたものだった。

「えっなんでオーズのベルトが!?!」

青年は三枚の鳥がモチーフの黒いコアメダルをオーズドライバーにいれオースキャナーに読み込ませ叫んだ。

「変身ッ!」

『タカ! クジャク! コンドル! タージャードル!』

そして青年は黒いタジャードルに変身した。

## 第2話 首と吐き気と二人のオーズ

「黒いタジャドル…!?!」

映司は混乱していた。

少し前まで自分が変身していたオーズが見たことないフォームで目の前にいるのだ。

映司は立って見ていることしか出来なかった。

「うおおおー!!」

タジャドルは勢いをつけて怪人にパンチを喰らわせる

さらに怪人が怯んだ隙にコンドルレッグを展開し変則的なキックで連続攻撃をする

「そろそろ決めるか」

そう言いながら手を胸の前にかざすとドライバーに入っているのと同じコアメダルが7枚現れた

タジャスピナーを近づけるとメダルはスピナーに入っていった

そしてオースキャナーにタジャスピナーを読み込ませる

『タカ クジャク コンドル タカ クジャク コンドル タカ…  
ギガスキャン!!』

「マグナブレイズ!!」

タジャドルは叫びながらジャンプして不死鳥を模した炎を纏って怪人につっこむ

怪人は背負っているバズーカから弾を出す但当たらない

ヤバイ思った片方の怪人はもう一体を盾にして逃げ出した

「なっ!」

盾にされた怪人はなにもできず倒された

「逃がしたか…頭はそこそこあるようだな」

そう言いながら変身を解除し町の方向を向いて歩こうとすると口を開けてポカーンとしている映司を見つけた

「…おい…大丈夫か？」

映司は目の前にいる青年の首を掴み揺らしながら質問攻めをしていた  
「さっきの黒いコアメダルは何！？なんで君がオーズになれるの！？ドライバーは何処で手に入れたの！？」

凄じ勢いで揺らされ青年は吐きそうになっていた

「手を離してくれえええー！！！」

青年が叫ぶと漸く自分がしていることに気がつき手を離す

「あ、ごめん」

「う、吐きそう…ところでなんでオーズの事を知っているんだ？」

「俺も少し前まではオーズだったんだ」

映司は笑顔で話すが青年は驚いていた

「え、本当！？」

「うん、メダルの事とか全部知っているよ」

「そうなのか…」

（じゃあこの世界はオーズの世界なのか…ならオーズは味方に入れた方がいいな）

そう考えながら自己紹介がまだだということを出す

「あ、俺はコウイだ。よろしくな」

「俺は、火野映司こちらこそよろしく」

紹介を終えると辺りが暗くなりかけているのに気づいた

「日が暮れてきたあの町で今日は休もうか」

「賛成」

そして町に向かって歩き始めた

## 第2話 首と吐き気と二人のオーズ（後書き）

ちなみにコウイの名前は

まず思い浮かんだコウイチロウ…長い

からロウを引いたコウイチ…ありがち

チをとってコウイ…多分大丈夫ということで決めました

誤字などがありましたら感想の悪い点へお願いします



### 第3話 最初と試しと再び

町に着いた映司達は宿を見つけ映司の部屋で話をしていた

「なあ、映司はどうしてオーズになったんだ？」

「旅をしている途中に夢見町という町でお金を貯めていたんだ。アルバイトが終わった後、欲望の怪人：グリードのアンクというやつに会ったんだ。その時に他のグリードが作ったヤミーに襲われた。そしてアンクからオーズのベルトを渡されて変身したのが最初：俺はこの力が人を助けられると思って戦ってた。でも今はベルトしか無いけどね…」

話終えた映司は暗い顔をしていた

「そうか…」

映司の顔を見てコウイは言葉をかけられなかった

そのまま沈黙が続き時間が過ぎていった

今日はそれぞれの部屋で休み詳しい話は明日することになった

「ん、じゃ」

「おやすみ」

次の日

二人は町の中を歩きながら話をしていた

「コウイのメダルで俺は変身できないのかな？」

「どうだろう…試してみるか」

二人は町から少し離れた場所で試すことにした

「えーとベルトは…あった」

映司はドライバーを腰につける

それを見てコウイは胸の前に手をかざすとコウイが変身に使ったのとメダルが十枚現れた

それを映司がそこから三枚とりドライバーにいれてオースキャナーを持ってスキャンするがスキャナーが読み取らない

「あれ？なんで？」

「どついう事だ？」

考えていると突然三体怪人が現れた

その中には昨日戦った『カメバズーカ』の姿があつた

「昨日のやつか…」

「どこの世界でも邪魔をするのだな仮面ライダー共！！」

「お前らみたいなバ力を止めるために居るんだよ仮面ライダーは！！」

コウイはそう言つて相手に突っ込みながらドライバーとメダルとだし腰につけて叫ぶ

「変身ッ！！」

『タカ！クジャク！コンドル！タージャードル！』

「はぁぁーっ！」

怪人の内二体にラリアットを喰らわせカメバズーカには跳び膝蹴りをする

映司は横でその様子を見ていた

「…俺も変身できたら…なぁアंक俺はどうすればいいんだ？」

割れた赤いメダルを握りながら今ここにいない仲間に質問するとドライバーに入ったままだったメダルが突然光りだしオースキャナーが勝手にそれをスキャンする

『タカ！クジャク！コンドル！タージャードル！』

映司は赤いタジャドルに変身した

## 第4話 必殺と邪魔と謎の影

「え？」

映司は自分でも訳が分からなくなっていた  
さっきまで変身出来なかったが突然変身したのだ  
その場で見ていた全員も驚いていた

ある怪人に至っては状況を飲み込めてない

「何で？」

「仮面ライダーが二人だと!？」

「そんなばかな!？」

「????」

ひとまず映司はそのまま戦おうとする

クジャクの羽を展開しそこから弾を飛ばす

「はぁぁー!!」

「そんなもの避ければいい」

怪人たちは避けるがコウイも近くにいたので当たりそうになる

「おい、危ないだろ！」

「あ、ごめん」

映司はそう言いながらも空を飛んでタジャスピナーから弾を出して  
攻撃する

「俺だつて!!」

コウイもカメラバズーカと肉弾戦を始める

まず顔にパンチをしタジャスピナーから弾をとばす

カメラバズーカは避けようとするが次から次へと技がとんでくる

映司の方も2体相手に有利に戦っている

「決めるよ、コウイ！」

「ああ」

変身の時と同じようにオースキャナーにメダルを読み込ませる

『Scanning Charge!!』

二人は翼を展開して飛ぶ

そこからコンドルレッグを展開して急降下キックをする

「セイヤーツ！」

「プロミネンスドロップ！！」

カメラズーカはこのままではまずいと思ったが二人のタジャドルに大きな球が当たり地面に叩きつけられる

それと同時に砂が舞い上がった

「これじゃあなにも見えないよ！」

映司は立ち上がって言うがコウイの姿が見えない

「あれ？コウイどこにいるのー？」

反応はないのでタカの目を使って探す  
しかしさっきの怪人と別の影が見えた

「誰だお前は？」

誰も答えない

そしてその影は他の怪人と共に消えた

「いなくなった…？」

少しすると視界が開けてきた

誰もいないのを確かめて映司は変身をといた

「ん、コウイ！？」

映司は左に気配を感じたので見るとコウイが倒れていた

「コウイ！！大丈夫？早く宿に戻らないと」

コウイを背負って映司は宿に向かって歩いていった

## 第5話 過去と記憶とお腹（前書き）

今回は少し長めです

## 第5話 過去と記憶とお腹

宿に戻った映司はコウイをベッドに寝かせた

「よいしょ…ふう」

映司はコウイに怪我がないか見る

「怪我はないみたいだね」

映司は自分の部屋に行きベッドに向かって倒れた

コンボを使いさらにコウイを運んできたのだ疲れないわけがなかった

（…何で変身出来たんだろう？他にもコウイには聞きたい事がある

…今は聞けないしひとまず寝よう）

映司は眠り始めた

次の日

朝から雨が降っていた

コウイは窓の外を見ていた

嫌な天気だなあとコウイがそう思っていると後ろからノックの音がした

「ん、誰だ？」

コウイはドアを見る

すると日本語で呼ぶ声が聞こえてきた

「コウイー おきてるかー？」

「映司か…鍵はあいてるぞー」

ドアを開けて映司が入ってきた

「おはようコウイ。調子はどう？」

「問題ない。ありがとうな運んでくれて」

「別にこれくらいは…ライダーは助け合いでしょ」

「だよな！」

「そういえば俺はコウイのことなにも知らないね。教えてくれない？」

「そうだな、仲間同士情報は共有した方がいい。まずは俺のことから話すか…」

そういった途端コウイの顔が少し暗くなった

「俺は…この世界の人間じゃない」

「…え？えええー！？それってどういうこと！？」

「俺の世界はオリジナルの世界…簡単に言うと俺の世界で生まれたものはパラレルワールドとして成立する」

「…なんだか難しいなあ」

「他に説明のしようがないんだよな…まあこのまま続けるけど。俺はそこで普通に生活していた。でも学校の帰りに滅びの現象を見た」

「滅びの現象??」

「簡単に言うと建物がセルメダルに変わるような感じかな」

「それを目の前で見たの？」

「ああ…建物が消えた瞬間目の前に何十体もの怪人が現れた。怪人は俺を狙っていた。だからとにかく走って逃げた…でも追い付かれなかった。その時に横にあったゴミ袋の下に仮面ライダーのベルトがあった」

「それはオーズのベルト？」

「違うベルトだった。でもなぜか分からないけど俺はそれを知っていた。変身して戦おうとした。ひとまずその場は切り抜けたけどその世界は滅びていた。その時謎の声が聞こえて俺はその通りにオーロラをくぐった。そこは別の世界だった。そこからは怪人を倒してオーロラをくぐっての繰り返しで今に至るというわけさ」

「そうだったんだ…じゃあベルトとメダルはどうやって手にいれたの？」



「俺も分らない…この世界に来たとき手にもっていた。俺もこの世界に来る前の記憶が一部無くなっていてよくわからないんだ」

「そうなんだ…そういえば俺はなんで変身出来たんだろう？コウイは何か分かる？」

「さあ…俺もメダルについては全然わからないんだ。俺が変身できる理由も知らないし」

「だよね…」

すると映司のお腹から音があった

「ああお腹すいたなあ」

「もうそんな時間だったか…今から食堂行くか」

「うん!!」

二人は食堂へと向かっていった

## 第5話 過去と記憶とお腹（後書き）

コウイの世界は今自分が生きている世界と考えてください

この世界で出来たものの例えばこの世界で仮面ライダーオーズという作品ができたならそれがパラレルワールドとして成立という感じですが分かりにくくてすみません

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5034z/>

---

仮面ライダー000/オース Ankh Re:birth story

2011年12月25日14時48分発行